

留学先国名 : イギリス

留学先学校名 : York College

留学期間 : 平成 27 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 7 月 1 日

私は留学中に現地の家庭にホームステイさせていただき、1 年間をイングランド北部の York College で勉学に費やしました。留学生とルームシェアをするよりも現地の人々の家で様々なアクティビティをした方が学校にいない時間もたくさんを学べると思ったからです。学校とステイ先の家、どちらでも様々なことを感じ、理解し、経験できたと思います。

私がまず学校で思ったことは、留学生は留学生、現地学生は現地学生で交わることが多かったということです。私の入学年度で同じコースを受講していた留学生はおよそ 50 人で内 9 割が中国からの学生で残りはそれぞれ違う国からの学生でした。昼食時や休み時間でも中国の学生たちはやはり常に固まっていた、英語ではなく中国語で話しており、現地学生もそのように固まられていると話しかけづらいようで、休み時間は中国人グループとそれ以外のグループという風に分かれることもありました。この結果は 1 年後の英語の試験 IELTS で可視化されました、常にグループで行動していた一部の中国人学生の英語力はあまり伸びていなかったのです。彼らも結果を見たときには「もっとしっかり日頃からイギリス人やネイティブスピーカーと会話しておけばよかった」などと言っていました。ここでわかったことは、やはりいくら自分が恥ずかしがりであったり言語に自信がなくても、殻に閉じこもったり同じ国籍、地域の人々と常に交流していても学習面には成果があまり出ないということです。特に日本人にはそういった性格の人が多く感じられるので、その点を注意するように今後留学する人には伝えておきたいと思います。

また、発音がたとえネイティブのようでなくても彼らは十分に理解できるしそれをあざ笑ったり冷やかしたりすることも無いということを知りました。多くの日本人は中学から英語を学んでいるのにほとんど英語を喋ることができません。これは、日本人が自分の英語の発音に自信を持っていないからです。私も渡英した頃はそういった気持ちが大変強く、ホストファミリーとの会話や学校での授業内の発言がうまくいっていませんでした。しかし、ある時に同級生のイギリス人数人と話し私の発音を褒められた時から自信がつきそれ以来は自分の発音のことは気にせず話すように心がけました。すると周りに臆することなく発言をすることができるようになりました。今回の留学で思い知ったのは、日本人は発音が悪いので相手に聞き取られないのではなく、自分に自信がなく声が小さいために聞き取れないということです。実際に私もホストファミリーとの会話でそういったことがありよく分かりました。日本からの留学生、特に幼少期から英語に慣れ親しんでおらず、英語に自信がない人々は、声をしっかり出してゆっくり話すように心がけるのが相手に聞き返されることなく会話が続く、結果自信にも繋がると思います。

1年間のYork College 進学準備コースへの留学は大変実り多きものでした。学校で一番初めに学んだのは様々な授業でもエッセイの書き方でもなく、盗作についてでした。イギリスを含め欧米諸国では盗作への態度が日本に比べ大変厳しいものとなっています。それはつまりどれほど素晴らしい論文やエッセイを書いたとしてもそこに引用元や参考文献の記述が無ければ盗作の容疑をかけられたり根拠のない説得力のないものとして扱われません。そのため、現地では授業開始後すぐにいかに盗作が忌避されるべきことなのか、どのように文章を資料から引用するかについて学びました。結果エッセイの作成のためには膨大な量の資料を必要とします。一見大変骨の折れる作業だと思われませんが、これは結果的に生徒のエッセイにおける立場を偏見のない中立な立場へと導くことに一役買っています。多数の書物を読み一つの事柄に対し10も20もの別の視点を持つことが、筋の通った中立な立場で書かれた論文を書くのに大変重要な事である事が分かりました。

毎授業殆どの場合ディスカッションが設けられ、留学生、現地学生関係なく自分の意見を述べる機会がありました。また、教師は自分の言った事を全て白板に書かず、生徒たちは素早くノートテイキングをする必要もあります。そういった点はやはり日本と違い初めは私も悪戦苦闘しました。既に述べたように、自分の英語に自信を持てなかった頃は特に大変でした。今回の留学で学んだことは自分の意見を常日頃からしっかり持ち、英語で話すことに一切臆さず他者に伝えることの重要さです。何も言わなければ同席している学生からも怪訝な顔をされたり無視されるといったことも起こります。しっかりと自分の意見を持ち伝える、それが他の学生から認められ友人となるきっかけになると私は思い知りました。

2016年9月にはまた英国へ戻り、University of York で3年間学部留学を行います。1年の準備コースで培った英語力や考える力、伝える力を持って英語というバリアを取り払って学べる事を全て学び切れるようにしっかりと勉学に勤しみたいと思っています。